

る所が尠くない。即ち大阪組合銀行の月末一日の一般自由預金増加額は八億五千六百万円と月中増加額九億八千六百万円の八一%に当つて居り、月末預金残高の増加がそれだけ実質的に銀行手許を潤したとは受取り難い(大阪)。

尚秋田、新潟、福島等の米産地に於ける一般自由預金は依然伸び悩み状態にあり、殊に農業会貯金は供出用米の買入資金引出等の為激減して居り(秋田、仙台)、無記名定期預金は無記名福徳定期預金に圧されたこと、六割課税が祟つて東京、大阪の如き大都市以外は不振であつた(各店)。

次に封鎖預金の引出は急減し、銀行の資金繰りに相当の裕りを与へたが(函館、金沢、大阪)、之は生活費引出未済分が五月中に大半引出され、生活費引出制限の効果が本月如実に現はれたことに基いている(函館)。

四、貸 出

政府支払の遅延、事業経営の赤字増大、公債引上見越に基く手持資材の売惜み、地方財政の窮乏化等に加へ、春蘭の出廻期に入りたることとて事業資金の需要は愈々増加し、市中銀行の貸出は顕著な増高を示した(大阪、神戸)。殊に大阪組合銀行の如きは月中の増加高十三億六千七百万円と最近三ヶ月間平均増加高四億五千万円の三倍に達した(大阪)。之は市中銀行が貸出規制強化を見越し、貸出枠を使ひ切ろうとしたことにもよるものと見られる(大阪)。又地方財政の窮乏化に伴ひ県、市町村等公共団体に対する貸出増加も著しく(仙台、松本、神戸)、重点産業に対する資金供給を圧迫している。

尚中央に於て企圖中と伝へられる貸出金利最高制限に対し、地銀筋では経営コストの観点より反対し、仮令公定する場合と雖も地方事情を考慮して、ある程度の幅を持たせ、運用は専ら日本銀行に一任する等の措置を望んでいる(小樽)。又公団金融が復興金融庫担当となれば復興金融債券の利率は引上げてもらはねばならぬとの声が強い(小樽)。

五、通 貨

政府支払の減少と自由預金の増勢により日本銀行券の発行超過は比較的尠く、支店によつては久し振りに還収超過を示したものも見受られた(青森、高松、松江)。

六、物 価

右の如く通貨の膨脹傾向は稍鈍化せるに拘らず、主食品は遅配累計日数の増大に依じて暴騰し、米の闇値は阪神地方一升二百五十円(大阪)その他の中小都市に於て百五十円と昂騰した(甲府)。食糧品以外のものは公債改定待ちに荷動き鈍く、従来如き著騰は見られないが、公債引上を契機として急騰する気運を孕んでいる(大阪)。斯くて物価引下運動は何日の間にか立ち消えとなり、一般大衆の不安焦燥は愈々高まつて来た(各店)。(安斎)

(本稿作成迄に札幌、名古屋、京都、岡山、広島、熊本、鹿児島各支店の報告未着に付き参照を省略した。)

昭和二十二年七月——九月

七 月 中

一、概 況

経済実相報告書の発表は我国初めての試みであり、その卒直さは一般に好感を以て迎えられたが(門司、松山、甲府、仙台、福島)経済危機に対処すべき政府の具体的な対策が明示されていない為徒らに前途に対する不安を募らせたかの感がある(各店)。之に引続き新物価体系の発表を見、公定価格の大幅引上が行われたが直接日常生活に響く問題だけに一般大衆の関心は之に集中せられた(各店)折柄主食の遅配欠配は益々激しくなつて来た為、貸銀引上要求は再び熾烈化し(青森、松山、新潟)、物価と貸銀の同時安は早くも困難視されるに至り、先高見越気運濃厚である(名古屋)。又貿易再開を機とし平価切下が実施されるとの風説は根強く伝へられたが(門司)、蔵相の声明に漸く下火となつた(神戸、松本)。

二、預 金

銀行方面の一般自由預金は、最近にない著増を示した前月に比しその増勢稍鈍化した(門司、松江、甲府、金沢、静岡、秋田、京都)。之を名古屋市内組合銀行の新勘定預金に就て見るも、月中の増加額は一八〇百万円に止まり、六月中の五〇〇百万円に比し、格段の減退振りを示している(名古屋)。従つて融資規制に

基く貸出枠を拡大すべく月越しの預金を極力勧誘している向もあると言はれてゐる(神戸)。

斯くの如く自由預金の伸びが悪かつたのは融資規制の強化に基く貸出の引締め並に公定価格引上による資金需要の増加によるものと認められるが、六月末に於ける預金残高の粉飾による所も尠くないであろう。

之に反し農業会預金は麦、馬鈴薯の供出良好で(松山)、供出代金並に蘭代金が預金に振込まれた為最近にない増加を示した(熊本、神戸、松山)。

三、貸 出——融資規制強化の反響

政府支払の渋滞、並に融資規制を主因に事業会社の金詰りは逐月深刻化しつつあつたが、今回の公定価格大幅引上げにより資金需要増大し、金詰りの傾向は一層増大するに至つた。従つて市中銀行に対する借入申込は融資規制強化見越しの関係も手伝ひ俄然増加し、銀行窓口は近來に無い繁忙を呈した(大阪、名古屋、門司、神戸)。然るに二十二日融資規制強化が発表せられ、七月一日に遡つて適用せられることとなつた為、市中銀行は下旬急激に貸出引締めの余儀なきに至つた。然も六月末に於ける貸出未使用枠も打切られ且、自由預金の増勢も鈍化した為、新規貸出を極力厳選し(仙台、甲府、神戸、高松)、又大口長期の貸出は本行の斡旋融資に廻し、短期の運転資金中心主義を採つてゐる(金沢)。一方既往貸出の回収に就いては格別の努力を払つてゐるが(各店)、借主側も再度借入の困難を見越し、返金を渋つてゐる為、貸出回収は極めて困難となつた(各店)。

右の如く公定価格引上げに基く資金需要の増加と、融資規制の強化が搦ち合つた為、事業会社は極端な資金難に陥り、中には給料支払にも困窮し(神戸、松山、松江、松本)、工場閉鎖の一手手前まで追込まれたものもあり(甲府、新潟、松本)、労働組合幹部が直接銀行へ借入金の交渉に来る等の事例も見られ(京都)労働攻勢が日本銀行へ集中することも予想されるに至つた(名古屋、静岡)。

然し一部には金融逼迫に直面して企業合理化の不可避を覺り労働組合自らが過剰人員を整理して会社を立直さんとする気運を示すものも見られ(神戸)、又増資等によつて自己資金を増加せんとする傾向も窺取せられた(名古屋、松本)。

尚融資規制の強化に関し市中銀行の要望している点は次の如くである。

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年七月—九月

- (1) 五〇%と云う枠の緩和(大阪、広島)
 - (2) 六月末の未使用枠の打切りの緩和(仙台)
 - (3) 購蘭資金貸付、買手割引の枠外融資の承認(名古屋、新潟)
 - (4) 一ヶ月位の短期貸の簡易迅速なる枠外融資承認
 - (5) 公団設立に伴ひ閉鎖された機関より貸付回収金を新勘定預金増加とせず、貸付の回収とする事(名古屋)
 - (6) 政府支払の進捗(熊本)、及政府支払遅延に関し、官庁之を証明する場合、その範囲内に於ける枠外融資の承認(門司)
- 最後に今回の融資規制の合理化、又は企業整備、流通秩序の確立等綜合対策の一環として行われ限り「金融措置の先走り」の弊を繰返すのみである(大阪、高松)との批判が一般的であつた事を付加しておく。

四、金 利

五日全国銀行協会連合会にて行はれた貸出金利協定に基き、各地に於ても基準利率日歩二銭、最高利率日歩二銭三厘の協定が表面平穩に行はれたが、地方銀行の預金コストが中央に比し割高であり、且経済費増嵩の折柄實際利率は大半日歩二銭三厘となりつつあり、又丙種事業えの貸付利率が協定より除外された為、之を引上げることにより貸付平均利率の低下を抑止せんとする傾向がある(神戸)。

尚貿易手形割引レートの日歩一銭七厘は低きに過ぎると云うことが銀行側のみならず業者側からも云われて居り、日歩一銭九厘乃至二銭に引上げべしとの声が高かつた(大阪)。

五、物 価

基礎物資の公定価格並に運賃等の二倍半乃至三倍引上げにも拘らず目下の処圍値の急激なハネ上りは見られなかつた(各店)。即ち生産財の闇値に就いて見るに極端に品薄である油脂類カーバイド(神戸、大阪)並に石炭酸類の昂騰(大阪)と炭礦筋の鋼材レールの二、三割昂騰(札幌)を除いては大体保合状態であつた(各店)。之が原因としては会社筋が今回の改訂を見越して既に相当の闇値で買込んでいたが(門司)、融資規制の強化で業界が極度の資金難に陥つたこと(大阪、神戸、松本、金沢)、完成品の公定価格の改訂未定の為、荷動き鈍く、又關取締り

も強化されている事(各店)等によるものと見られている。殊に木材の如きは建築制限令による需要減少と木材業者の金詰りに基く売焦りにより六月末に比し二、三割方下落の有様である(松本、秋田、静岡、門司、熊本、松山)。消費財の闇値を見るに食糧品は主食の運配日数の累増に依じて昂騰しているが、その他の物資は大衆が主食品の闇買いに追われている為格別騰貴していない(松山、新潟、札幌、静岡)。之は五日実施せられた料理飲食店閉鎖によることも大きく、酒類は極端な下落を示している(熊本、神戸)。又放出物資で運配日数も埋められつゝある北九州に於ては主食品も若干値下り気味である(門司)。

次に物価改訂後の賃銀の動向を見るに先般来賃銀ストップ説が流布され賃銀引上げを実施したばかりの処が多いせい、か格別の上昇も見られなかつた(神戸、新潟、金沢)。然し乍ら食糧事情の急迫に伴い危機突破資金等臨時的手当の要求は熾烈を極めて居り(各店)、従来の給与が今回政府の発表した暫定業種別平均賃銀より低い方面に於ては平均賃銀まで引上げの要求が行われている(松本、新潟)。

今回の物価改訂後の闇物価並に賃銀の動きは以上の如くであるが、今後この新物価体系が維持されるか否かは流通秩序を確立し、生計費中に於ける闇依存度を圧縮して実質賃銀の充実を計り、物価と賃銀の悪循環を断ち切り得るか否かにかゝっている(神戸)。然し公定価格の引上に基く財政支出の膨脹と臨時給与等の増加から新たな物価騰貴が起り之を起点としてインフレーションは更に発展するものと見る向が多い(大阪)。(安齋)

八月中

一、概況

輸出入回転基金設定の発表、バイヤーの来朝等はジリ貧状態に昏迷している我國経済の再建に多大の希望を齎したが、更に輸入食糧の大量放出許可は運配に悩む国民に絶大なる安堵感を与えた(各店)。然し乍ら各企業は正規配給の資材僅少なる上、闇値の値上り電力飢饉等に依然赤字経営の已むなく(小樽)、更に融資規制と公定価格引上げにより極端な金詰りに陥っている(高知、熊本、岡山)。之が為給料の支払にもことかくもの続出し、経営の合理化気運が、経営者側からのみな

らず、労働組合側からも起きている(小樽、前橋、岡山)。然し中には鹹首言渡しから烈しい労資対立を生じている場合もあり(高知)、経営の合理化に伴う失業問題は逐次深刻化して来た。又公定価格引上げによる生活苦は益々深刻化して居り、片山内閣に対する信頼感の稀薄化も一部に窺われる(松本、松山)。尚経済力集中排除法案の発表は産業界及金融界に多大の不安を醸している(各店)。

二、預金

大阪、神戸等の如き大都市所在銀行の自由預金は著しい増加を示した。即ち大阪組合銀行の月中一般自由預金は十六億四千万円を増加し、前月の増加額九億八千万円を遙かに上廻っている(大阪、神戸)。斯くの如き著増の主なる原因は、巨額の政府支払資金と復興金融庫の各種公団に対する貸付資金が預金となつて還流した点に存するが、その他融資規制強化に伴い、各銀行が預金吸収に全力を注いだこと、銀行が貸出先の有する自由預金を貸出の担保に供せしめることによつて枠の余裕を生ぜしむることに躍起となつた結果、自由預金が縛られたこと(大阪)、並に月末に於ける粉飾(神戸、門司)等の事実も自由預金増加の原因として見逃し得ない(大阪)。最近預金は毎月月初著減し、月末急増しているが、之は月末決済の増加と云わんよりは、寧ろ粉飾による結果と考えるべきである(各店)。

大都市以外の地方に於ける自由預金は麦、蕎麦、馬鈴薯等農産物代金の流入、闇取締りの嚴重化等を主として順調なる増加を見た所もあるが(前橋、京都、松江、新潟、甲府)一般には伸び悩みの傾向を示した(名古屋、小樽、松本、熊本、松山)。その原因としては、物価の昂騰に基く所要資金の増加、貿易再開に伴い流布せられたる平価切下説の擡頭、旧盆資金の引出等によるものと思われる。

又麦、馬鈴薯の供出代金振込は峠を越したが、その歩留り率は芳しくなく、特に農業会の改組不安から、その歩留り率は四〇%程度に止まつた処もある(熊本)。然し一方農村恐慌の再来を予想して一頃の如き浪費態度も見られず(高松)歩留り率は七〇%程度に達している処もある(神戸)。尚九月一日より実施予定の第四回福德定期預金の成績は同預金担保貸出が禁ぜられている関係から余り好くないものと見られている(熊本)。

三、貸 出

融資規制の強化によつて市中銀行は貸出を引締めているが、更に相次ぐ閉鎖機関の指定や、経済力集中排除法案の発表等の為最近は特に慎重となり（神戸、仙台、前橋、京都）、地方支店銀行の如きは本店送金に力を注ぐのみである（前橋）。貿易手形の割引に就いてもメーカーの信用程度が低い為紡績関係以外の分に就いては割引利率の引上げられたにも拘らず消極的である（京都、札幌）。尚自由預金担保貸出が多く（小樽、京都）、小樽市内銀行母店の八月二十日現在福徳定期預金担保貸出の如きは同預金残高の四〇％に達している事実は注目すべきである。一方産業界は資金梗塞著しく之が為融資申込は従来にない増加を来した（神戸、熊本、小樽）。又最近中央に本社を有する地方工場までが本社の金繰り困難から地元銀行との貸付取引を希望して居り（松江、仙台）、殊に蘭仙の大幅引上げに基き、地方の製糸工場の購置資金需要は巨額に達している（福島、仙台、甲府）。更に地方財政の窮乏も著しくこの方面からの貸付申入れも著増しているから（各店）地方の資金需要は地方銀行の資力では応じ切れない状態である（福島、仙台）。熊本支店の報告によるも市中銀行は總体的に見て申込の七、八割は拒絶している由である。従つて事業会社の資金難は深刻を極めて居り、経営合理化の不可避を悟るものが多くなつて来た（前橋）。尚融資規制強化の結果借入金によらず増資により必要資金を調達せんとする傾向も強くなつて居るが（熊本、広島）、一方関金融が活潑化している事実は警戒を要する（岡山、熊本、熊本）。

四、市中金融機関の金繰りと金利

政府支払の進捗と公団の大口預金により、大都市所在銀行の手許は大いに寛ぎ、本行貸付金も大幅に収縮したが（大阪）、地方に於ては上述の如く預金不振、貸出増加に手許資金逼迫し、本行の貸出を仰いだ向もある。

貸出金利は日歩二銭一厘乃至二銭二厘中心となり前月に比し日歩約一厘方昂騰し、内種に対する貸付利率は各地共日歩二銭五厘（大阪、小樽）程度となつて居る。斯くて協定最高利率日歩二銭三厘の維持も早晚困難となるべく、十月に於ける再協定の際には協定利率を引上げべしと主張する向もある（大阪、小樽、仙台、門司）。

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年七月—九月

五、物 価

輸入食糧放出による完全配給の声明に米の闇値は二、三割方下落し（各店）平年作見越による農家の売急ぎが目立つた。地方によつては野菜も共々下落し、激化を予想された労働攻勢も小康を得た形であるが（神戸）、主食以外の消費財の闇値は依然漸騰しつつあり（小樽、松山、岡山）、特に東北地方に於ては水害により生鮮食料品が暴騰している（秋田）。尚公定価格が大幅に引上げられたに拘らず、流通秩序の確立は結局困難にして、従つて緊急対策の成功はおぼつかなく（金沢）賃銀引上要求は熾て熾烈化するものと予想する向もある（前橋）。

六、貿易代表団来朝

バイヤーの来訪は絶大なる期待を以て迎えられたが、商談の成立を見たのは、極めて僅かに過ぎず大阪に於ては一件も無い有様であつた（大阪）。斯くの如く商談の進まなかつた原因としては

- (1) 日本商品の品質、技術は下等拙劣にして米国のバイヤーに採り一顧の価もなかつたこと、
- (2) 為替レート未定の為貿易手続煩雑なること（大阪、神戸）等が挙げられている。

七、農業協同組合法案の反響

農業協同組合法案の発表に対し、一般農民は関心薄く、大体一町村、一組合に落着くものと見られているが、改組不安の為多額の預金が出された農業会も見られた（熊本、門司）。又市町村農業協同組合の成立と同時に府県単位の聯合会が組織せられるものと予想せられるが早くも銀行方面に於ては系統機関の相互の紐帯弱体化を予想し、農業会より年五分五厘乃至六分五厘の高率を以て預金を吸収せんとしているものがある（名古屋）。（安斎）

九 月 中

一、概 況

輸入食糧の大量放出と出来秋豊作模様による主食闇値の下落は物価騰貴に悩む国民に一応の安定感を与えたものゝ（静岡、甲府）、新物価体系に基く公定価格の大幅引上が漸次消費財に及びたると流通秩序の確立が未だ掛声のみに終つて居る

為め、一般勤労者の家計は愈々逼迫するに至つた（函館、福島、金沢、熊本、京都）。かくて千八百円の賃銀ベース維持は困難となり（広島、金沢）、労働攻勢は八幡製鉄所のストライキ宣言を始めとして炭礦、電力等各方面に活潑な動きを示している（門司、岡山、名古屋）。一方生産は資材の涸渇と渇水、石炭不足に基く電力飢饉にその能率の低下著しく（松江、高松、神戸、大阪、名古屋、岡山）、特に鉄鋼、化学工業方面は極度の操短の已むなきに至つて（門司、熊本）。更に金融の梗塞は中小工業の経営を一段と困難ならしめ、設備の処分、人員整理等を余儀なくされているものも漸次増加している（京都、秋田、松本、高知）。

又商業界も一般購買力の減退を反映して荷動き不活潑となり（大阪）、百貨店、商店街の売上は前月に比し半減している（福島、高知、新潟、高松）。尚本月中旬関東、東北両地方を襲つたカスリーン颱風は稲作減収を始めとして農業、交通等に甚大なる被害を与えたが（青森、秋田）、災害復旧に要する多額の経費はさなきだに窮乏に瀕せる地方財政を更に深刻化せしめている（仙台、福島、前橋、甲府）。

二、預 金

一般自由預金は前月に引続き順調なる増勢を示しているが、特に大阪、名古屋、京都等大都市方面の増加は著しいものがある（大阪、名古屋、京都）。之を大阪、名古屋両組合銀行に就てみると、月中増加額は夫々二十億円、五億五千万円と前月中の増加額をいづれも三億四千万円、一億五千万円上廻っている。斯くの如き増加を示したのは、貿易再開救国貯蓄運動に当り金融機関が預金吸収に全力を注いでいることにもよるが（各店）、政府支払資金と復興金融庫の各種公団に対する融資が漸次地方に迄浸潤したこと、商況不振の爲め商業資金が滞溜していること、粉飾預金が引続き盛行していること等に主なる原因がある（大阪、門司、小樽、新潟、函館）。又農村方面に於ても一部水害地を除き、概して果実、蕎麦、煙草等現金収入の増加に伴い預金も急増を示して居り（松江、岡山、甲府）特に農業会貯金は蘭代金等の振替預入に著増している（鹿児島、神戸、松本）。但し供麦代金振込の終了した地方や農業会解散に伴う不安の顕著な地方では貯金引出を見て居り、麦、蘭代金の歩留の殆んど無い処もある（熊本、名古屋）。

第四回福德定期預金は預入直後の六ヶ月間の担保差入制限が響いて都市商工業

者方面の大口消化が極めて困難となつて居る（門司、熊本、松本、岡山、高松、広島、福岡、鹿児島）、農村方面の小口申込は比較的良好で期日たる十月十五日迄には全額消化が見込まれている地方も尠くない（函館、仙台、福島、松江、静岡、甲府、新潟）。尚、中国、九州両配電会社の増資株式募集状況は極めて良好で、割当額に略倍する申込があつたが、農村方面及び第一封鎖預金の処分をあせる都市商業者の応募が目立つて居ることは注目せられる（広島、岡山、福岡、鹿児島）。

三、貸 出

公定価格引上により産業資金需要は増大し、市中の金詰りは一段と深刻化しているが（全店）、大銀行の地方支店は経済力集中排除や閉鎖機関に指定を予想される方面に対しては貸出を極度に引締めている（岡山、神戸、熊本、仙台、高松、甲府）。此の爲め従来資金調達を中央本社に依存していた大会社地方工場にして地元銀行に融資を申込みものが漸次増大しているが（静岡、名古屋、門司、熊本、広島）、地元銀行側も之を好機に飛躍せんと積極的な態度を示している（門司）。又農業会方面の資金不足の關係にて購蘭資金需要は専ら地元銀行に集中し（福島、松本、前橋、甲府）、更に地方財政の赤字増嵩に伴い之が融資は一段と増加している為、中小商工業に対する貸出が圧迫されていることは否定出来ない（松江、高知、青森）。然し資金の廻転早く回収確実な方面には優先順位の如何に拘らず積極的に短期貸付を行い（静岡）、或は丙種産業に就ても商業手形の割引により資金を調達せんとする向きもある（福島）。尚貿易関係産業の生産資金たる輸出前貸金は貿易公団の証明書により融資せられて居るが之に就いても貿易手形同様の優遇措置適用方の要望が強い（名古屋）。

貸出金利は金融機関の経費増嵩に昂騰を余儀なくされ、新規貸出に就ては協定最高利率日歩二銭三厘を適用するものが多くなつたが（福島、松本）、丙種産業に対する貸付利率も日歩二銭五厘乃至二銭七厘と前月に比して一厘方昂騰し（熊本、高知）、又自行預金担保貸出に対しても日歩二銭を徴する向もある（松本）。

四、市中金融機関の金繰

食糧払下代金、申告所得税の納入、煙草等専売収入の増加により政府資金の引揚超過を見た地方は尠くないが（京都、岡山、金沢、青森、神戸、新潟、鹿児島、

札幌、大阪)、預金の増加が順調であつたため、購辦資金等貸出の激増を見た一部銀行を除き地方銀行の金繰は大に寛ぎ、余裕資金を以て本行よりの借入金返済する外、第一回復興四分利公債、復興金融債券の応募、コールの放出等に之を使用した(福島、松江)。

五、通 貨

本行各支店に於ける銀行券の増勢は一般に鈍化傾向を示し、熊本、高松等諸支店に於ては従来にない還収超過額を来した。然し札幌、函館、青森等では水産物、馬鈴薯、林檎等の出廻期に際会したのと炭礦の現金需要に前月を上廻る発行超過となつた。

六、物 価

主食の完配と豊作見越しによつて米の闇値は前月に引続き二、三割方の低落を示し米作地たる新潟に於ては月末一升七十五円に迄下落した(新潟)。更に新公定価格の大幅引上にも拘らず一般購買力の減退は著しいため、ラジオ、万年筆、陶器等一部商品には公定価格を割るものも尠くなく、一般雜貨類は保合状態にある(門司、熊本、高松、京都、福岡、神戸)。然しながら配給確保の困難な魚類、野菜類は漸騰して居り(仙台、新潟)特に冬季を控え薪炭類は二、三割方の暴騰を示している(大阪、函館、高知、甲府)。かくて一般勤労者の生活難増大に伴い賃銀引上要求は再び活潑化の気配を見せている(札幌、岡山)。(黒崎)

(本稿作成迄に松山支店の報告未着に付き参照を省略した。)

昭和二十二年十月——十二月

十 月 中

一、概 況

月末内定した追加予算は一応収支バランスしているものの、實質上は相当の赤字を出すものと観る向多く(岡山、松本)、年末インフレ昂進の予測が支配的である(前橋、金沢、神戸、松山、熊本)。従つて一時小康を呈した換物運動も再び活潑化した(前橋、高知)。

各支店金融報告抜萃 昭和二十二年十月——十二月

電力事情の悪化により生産は減退し、特に化学工業部門が甚しく(新潟)、事業会社の資金難は更に激化しつつある(秋田、静岡、高知)。企業合理化の必要も一般に認識せられ始めた為労働不安社会不安は漸次深刻化するに至つた(新潟、静岡、熊本)。

新米供出は新米価の決定と供米条件の改善等に依り早場米地帯の供出も順調で(青森、秋田、仙台、新潟、金沢)石川県の如きは月末累計供出高は割当高に対し七〇%と昨年に比し五割以上の好成绩を示しているが(金沢)、一方県外搬出は輸送の不円滑と労務者不足から頗る不振で一抔の危惧を生じている(新潟)。

公定価格の引上げも漸く一巡したが、流通秩序確立に依る實質賃銀の充実が行われていない為新物価体系の崩壊を予想する向が尠くない(岡山、熊本)。

二、預 金

先月稀有の増加振を示した預金は今月に入り全般的に増勢の鈍化傾向が見受けられ、前月末に比し却つて減少した地方もあつた(小樽、金沢、松山、高松)。その原因は前月決算期の関係で相当大規模に行われた粉飾の反動が現われたこと、年末を控えての仕入資金の引出が多額に上つたことに求められる(各店)。一方農業会に振込まれた供米代金も祭日消費資金(高松)、麦肥料購入、農器具補修等の農耕資金需要増大からその歩留は極めて低く(富山、高知)殆んど全額が引出された地方もある(福島)。又福徳定期預金は担保差入制限が影響して消化困難の模様であるが(各店)、此の種物奨付預金の魅力は未だ衰えず(小樽)各地に於て地元復興資金調達を目的として計画された報奨物資付預金は相当の成績を挙げている(秋田、新潟、松本、岡山、熊本)。

三、貸 出

公定価格改訂に伴う運転資金の増高、購買力低下に依る売掛金の回収遅延、地方公共団体の赤字累増等に加え、更に正月商品仕入期接近により一般に資金需要増大し、貸出は可成の増加を来した処もあるが(神戸、岡山、高松、福岡)、金融機関は自由預金増勢鈍化の傾向に貸出手控の態度に出ている。特に支店銀行の貸出は消極的で余力はすべて本店へ送金する傾向が強く(福島、岡山、甲府、高松、熊本)地元銀行の融資も配給機関、繊維工業に対する融資に集中している(大